

【研究テーマ】

自ら運動に親しむ子どもを育てるための学習指導法の研究
～子どもに達成感を味わわせる指導のあり方～

始良市立柁城小学校

〒899-5241

始良市加治木町仮屋町 248

TEL0995-(63)-2552

FAX (63)-2554

1 実施内容（計画、活動、対象、主な内容等）

（1）教科体育での取組

- 研究対象をマット運動に絞り、子どもが学習に取り組みやすく、教師は誰でも同じ観点で指導ができるようにするために、系統性を考慮し、中心技を設定するとともに、指導の指針として指導のポイントを明らかにし、教科体育の基本的な学習指導の展開例を作成し、実践した。
- 体力の向上を図るために、毎時間の授業で、本校で課題のある体力・運動能力の向上を目指し独自に開発した「柁城体操」を実施した。
- 子どもが自分で課題に気付き意欲的に学習できるようにするために、技の習得過程を設定し、教材・教具の工夫をしたり、技や動きのポイントに即した場の工夫をしたりした。
- 専門的な立場からの指導により、子どもが学習内容を確実に習得できるようにするために、地域スポーツ人材を活用した。

（2）運動の日常化に向けた取組

- 体力の向上を図るために、新体力テスト結果を分析し、課題を焦点化し、改善策を明確にした。
- 年間を通した体力の向上を図るために、運動会や持久走大会と関連付けた朝のかけ足運動やなわとび大会、「チャレンジかごしま（長縄エイトマン）」の記録向上を目指した朝のなわとび運動を行った。
- 相撲大会、つなひき大会等の特色ある学校行事で運動に親しませた。
- 市水泳記録会・陸上記録会に向けて、特別練習の時間を設定した。

（3）家庭との連携による取組

- 家庭での運動の日常化により、子どもはもちろんのこと家族全員の体力の向上を図るために、家庭と連携した「親子で元気アッププログラム」を毎月実施した。

2 実施上で工夫したこと

（1）教科体育での取組

- 子どもたちが「できた」という達成感を味わうことができるように「運動遊び→基本的な技→大きな技や発展技」といった技の系統性を明らかにし、当該学年の中心技を設定し指導した。また、教師が共通して個に応じた指導ができるように判定基準と指導のポイントを明確にした。
- 体力向上を継続するために体育の授業の最初にすべての学級で柁城体操を行った。
- 技や動きのポイントや一連の流れを全体で確認できる大型パネルを作成し、活用した。また、子どもの学び合いを活性化させるために、めざす技や動きの一連の流れを示し、そこに子どもが気付いたり、考えたりしたアドバイスを書き込むことができるようにアドバイスボードを活用した。

- 子どもが自分の課題に気づき、具体的な解決策を明らかにして課題解決に取り組めるように、ICT機器による映像や写真など、視覚的にわかりやすい資料を提示した。その際、地域スポーツ人材の模範演技と担任による課題のある動きを同時に提示し、比較させ、課題に気付かせたり、解決方法への見通しをもたせたりするようにした。

(2) 運動の日常化に向けた取組

- 新体力テストの結果を分析し、学年ごとに重点指導事項を設定し、準備運動等に取り入れた。その実践化の一つとしてラダートレーニングができる場を設置し、体力向上の環境を整えるとともに、教科体育の中で補強運動も取り入れ、重点指導を行った。
- 始業前に学級毎でかけ足運動やなわとびを行う等、多くの子どもが進んで朝の体力づくりに取り組むようにした。かけ足運動では、がんばりカードを活用し、取組状況を把握して賞賛した。なわとびでは、朝活動の全校体育で全校一斉に取り組むなどして、「チャレンジかごしま」への取組を意識した。
- 相撲大会やつなひき大会などの学校行事を通して、多様な運動に親しませることで、体力・気力の向上を図った。つなひき大会においては、保護者との対戦も取り入れ、親子で運動に親しませるようにさせた。
- 水泳記録会へ向けた練習に地域スポーツ人材を活用し、徹底した個別指導によりフォーム指導などを充実させた。

(3) 家庭との連携による取組

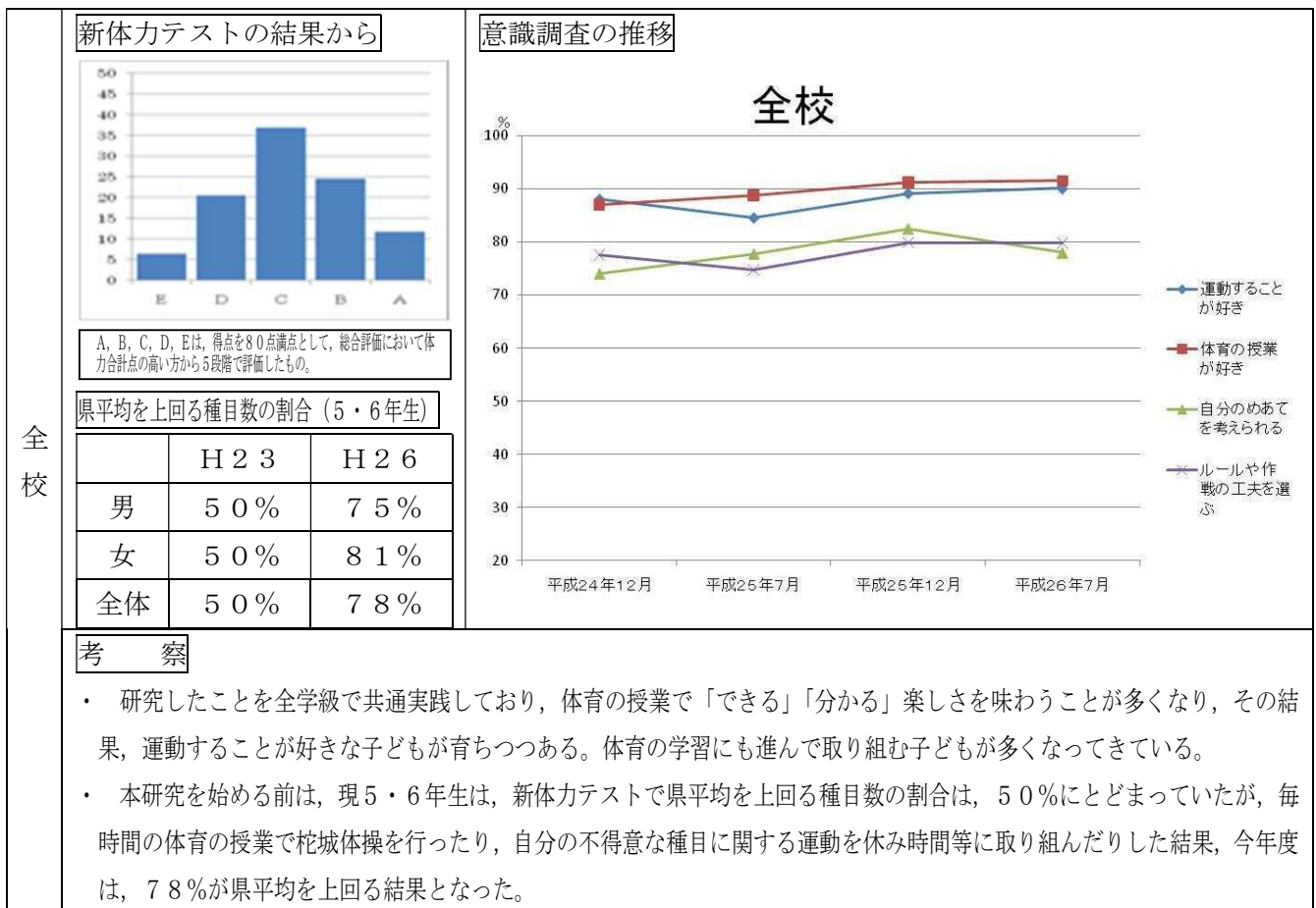
- 「親子で元気アッププログラム」について、保護者へ定期的な啓発を行った。毎日記入する記録カードと運動例を毎月配布し、実践を促すことにより、親子で一緒に運動する機会が増えるようにした。

3 主な成果

- 1単位時間の基本的な展開例を作成・見直しをし、共通実践したことによって、教師と子どもが、体育の学習指導過程を理解し、自らの課題意識や見通しをもって進んで運動に取り組むようになった。
- 体づくり運動の一環として、柁城体操を体育の時間に継続的に実施したことにより、柁城体操の精度が高まり、投力や巧緻性等で体力の向上が見られた。また教師の体力向上への意識が高まった。
- マット運動において技や動きの系統性を意識して中心技を設定したり、技の習得過程を明確にしたりして指導したことにより、教師は、6年間を見通して指導することができ、一つ一つの技をより確実に子どもに身に付けさせることができるようになった。子どもは、自分たちが挑戦する技や動きのポイントがより明確になることで、活動意欲が向上し、相互に教え合い・学び合いながら、スモールステップで達成感を味わうことができた。
- 始業前に学級毎でなわとびや持久走を行う等、多くの子どもが進んで朝の体力づくりに励んだことで、「チャレンジかごしま（長縄エイトマン）」での好成績、始良市の陸上記録会での数多くの新記録、校内持久走大会での多くの自己ベストの更新等、体力・運動能力の向上が結果として表れた。
- 「親子で元気アッププログラム」について、活用の仕方を工夫・改善したことで、家庭での体力向上に対する意識が高まり、取組状況が上向いてきた。

4 実践の様子（写真，絵図，グラフ等）

【1：子どもの新体カテストの結果，意識調査の推移】



【2：地域スポーツ人材による指導】

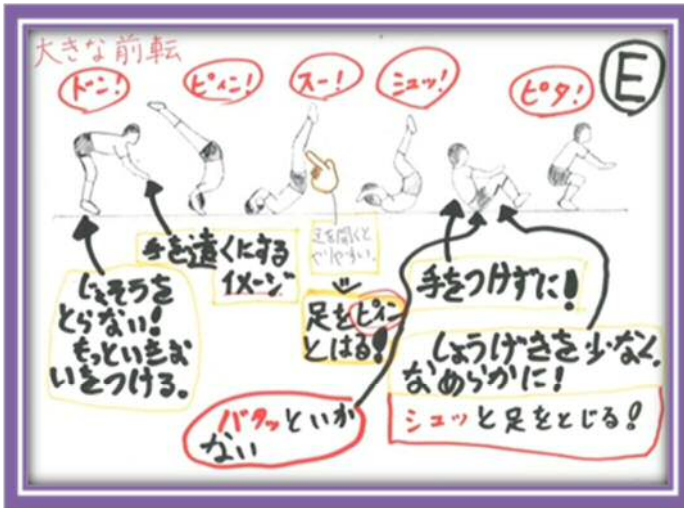


マット運動の学習で地域スポーツ人材の活用を行った。模範演技，子どもへの技のポイントの指導だけでなく，教師に対しても補助の仕方等を指導していただいた。

【3：技の系統が分かる大型パネル】



学習する技や動きの一連の流れを全体で確認し，技や動きのポイントに気付くことができるようにするために，大型パネルを作成した。子どもたちが気付いた技のポイントを書き込ませたり，技の系統を捉えさせたりした。



自分や友達の課題に気付き、自ら課題を解決できたという達成感を味わわせるために、グループごとに、目指す技や動きの一連の流れを示したアドバイスを活用して、子ども同士が具体的に教え合い、学び合いができるようにした。また、これまでの活動を想起しやすくするために、助言し合ったことを記録するようにした。

始業前に学級毎で「チャレンジかごしま（長縄エイトマン）」に取り組んだ。1年から6年まで多くの学級が記録更新を目指して取り組み、1年生でも100回を越える学級も見られた。高学年においては、全ての学級において300回を越えることができ、体力向上へとつながった。

【6：特色ある学校行事（校内相撲大会）】

【7：水泳記録会の指導（地域スポーツ人材の活用）】



5月に校内相撲大会を実施している。保護者や地域の方々の応援を受け、1年生から6年生まで、真剣な表情で相撲に挑んでいる。事前の練習等を通して、体力・気力の向上につながっている。11月には、始良市内で行われる相撲大会に30人ほどの子どもが参加した。

水泳記録会へ向けた特別練習で地域スポーツ人材の活用を行った。水泳記録会の入賞種目数で、平成25年度は15であったが、平成26年度は21であった。中でも3位以内の入賞種目がとても多くなった。これらの結果は、理想的なフォームで泳げるようになるための専門的指導によるものが大きいと考える。